展望台からの眺望(関城南側)

関市城跡探訪

～ 刀の町の城跡巡り ～

大洞城石垣

関市文化財保護センター
関市武芸川町八幡1446番地1
電話番号：0575-45-0500　FAX：0575-46-1221

平成31年3月発行

交通機関 Access Map

関市城跡一覧

地区	No	城館跡名	地区	遺構	位置
関	1	神野城	小野	×	D-6
関	2	小野城（本城山城）	小野 美濃市	○	D-6
関	3	広見城	広見	×	C-6
関	4	千疋城	千疋	×	B-7
関	5	西神野城	西神野	不明	不明
関	6	志津野城（椎倉城）	志津野	○	D-7
関	7	青之木城	志津野	○	D-7
関	8	関城	安桜山	○	D-7
関	9	吉田城	吉田町	×	D-7
関	10	十六所山砦	十六所	○	C-7
関	11	山田城	山田	不明	不明
関	12	肥田瀬城	肥田瀬	不明	不明
関	13	田原城（於前屋敷）	東田原	×	D-8
関	14	迫間城	迫間	○	D-8
洞戸	15	市場城	市場	不明	不明
洞戸	16	菅谷城	菅谷	不明	不明
洞戸	17	小坂城	下洞戸	×	B-5
板取	18	田口城（殿屋敷）	田口	○	A-2
板取	19	門原館	門原	×	A-1
板取	20	白谷城（板取城）	白谷	不明	不明
武芸川	21	跡部城（将監屋敷）	跡部	×	B-6
武儀	22	大洞城（一柳城）（津保城）	富之保（一柳） 上之保宮脇	○	E-5
武儀	23	大洞城	富之保（大洞）	不明	不明
武儀	24	町城	下之保	不明	不明
武儀	25	大門城	下之保	×	E-5
上之保	22	大洞城（一柳城）（津保城）	上之保宮脇 富之保（一柳）	○	E-5

⑧ 関城

関城は、標高一五二メートルの安桜山にあったとされています。築城時期については複数の説がありますが、永禄八年（一五六五）に織田信長が東美濃を攻めた際、長井隼人が関に本陣を置いたとの記録があるため、十六世紀中頃には何らかの防衛施設が築かれていたと思われます。

安桜山は公園として整備されているため、城の遺構なのか判然としない箇所もありますが、北側の斜面には、腰曲輪と思われる平坦面や竪堀があります。山頂からの眺望は全体的に開けており、岐阜城などを見ることができます。

なお、中世の関町は、新長谷寺などの門前町や、刃物を中心とする職人町として、安桜山の南側に栄えていたと考えられますが、北側に「城前」などの地名が残っていることから、城の正面が北向きであった可能性もあります。

周辺図

関城

展望台からの眺望(北側)

アクセス

安桜山公園駐車場から展望台まで約15分、山頂まで約20分。

② 小野城

小野城は関市西神野と美濃市樋ヶ洞にまたがる標高四二三メートルの本城山にあります。山頂を中心に東西約六〇〇メートル、南北約三〇〇メートルの範囲にわたって遺構が広がる中濃地域最大の山城です。

江戸時代から近代に書かれた文献資料では諸説書かれていますが、美濃守護代二族斎藤氏の居城であったと考えられます。

東側の斜面には切岸を用いた曲輪が連続して築かれています。大仏山、日竜峯寺がある高沢山へと続く東側の尾根には、隣接して築かれている竪掘があり、尾根の先には堀切、竪掘が設けられています。尾根の先からさらに東に進むと出丸と考えられる曲輪があり、土塁や障壁をもつ堀切、堀切から続く竪堀をみることができます。東側の尾根一帯で、山城の強固な防御施設を体感することができます。

周辺図

小野城

小野城石垣

アクセス

本城山登り口駐車場から山頂まで約60分。

⑭ 迫間城

関市と各務原市の境に近い、標高三三一メートル、比高一三〇メートルの迫間山には、かつて城があったとの記録があります。現在、迫間不動尊からの登山道が整備されています。

迫間城に関する詳細な史料は見つかっておらず、歴史や城主などについては不明です。三段に曲輪を重ねた主郭など、遺構と思われる場所は残っていますが、虎口遺構がないため、比較的古いタイプの城ではないかと言われています。

山頂からの眺望は北に向けて開けており、小野城や鉈尾山城などを望むことができますが、南側は周囲の山に遮られてしまいます。また、西側は山に視線を遮られてしまい、岐阜城（岐阜市）の方向を望むことはできません。

迫間山を含む周辺は、遊歩道として整備されています。時間はかかりますが、迫間城から尾根伝いに進むと、猿啄城（坂祝町）に到達できます。

周辺図

迫間城

山頂からの眺望

アクセス

迫間ふどうの森駐車場から山頂部まで、迫間山の西側を回る遊歩道（山道）経由で約20分、東側を回る遊歩道（主に階段が整備）経由で約25分。

㉒ 大洞城

大洞城は関市富之保に所在し、津保川と武儀倉川が合流する地点の北に聳える標高一六〇メートル、比高差約三〇メートル、南北約一五〇メートルに遺構が広がります。

織田信長の美濃平定後は、一柳直末、稲葉典通が居城としました。一時は郡上八幡城の出城になっていたようですが、関ヶ原の合戦後に廃城となったといわれています。

山頂には石垣を巡らせた主郭となる曲輪があり、その他に石垣を有する櫓台や虎口、竪堀、堀切がみられます。城主の居館は南西山麓にある稲荷神社の南東側にあり、居館の南東側に延びる緩やかな尾根が大手道であったと推測されます。山頂からの見通しがよく、飛騨西街道と郡上八幡を結ぶ交通の結節点に立地し、重要な位置を占める城であったと考えられます。

周辺図

大洞城

大洞城石垣

アクセス

県道沿いの駐車場が利用できます。駐車場から山頂まで約40分。
稲荷神社の脇に登り口があります。

関市の城

①神野城（神野）
大仏山に神野城があったとの記録がありますが、遺構は確認できていません。

②小野城（小野）
本城山に城跡があり、時期は不明だが武藤淡路守が住んでいたとの記録があります。山上に平坦部分がありますが、遺構とは断定できていません。

③広見城（広見）
松見寺山の上に城跡があり、時期は不明だが武藤淡路守が住んでいたとの記録があります。山上に平坦部分がありますが、遺構とは断定できていません。

④千疋城（千疋）
城主は不明ですが、千疋裏山に城があり「城山」と呼んでいたとの記録があります。遺構は確認できていません。

⑤西神野城（西神野）
高野山に城があり、齋藤宗遊が住んでいたとの記録がありますが、位置は定かではありません。

⑥志津野城（志津野）
池田恒利（池田恒興の父）や池田勝三郎信輝（池田恒興）が城主であったとの記録があります。椎倉山の上に城があり、永井隼人（長井道利）と推定）が住んでいたとの記録があります。

⑦青之木城跡（志津野）
字青之木に池田勝三郎信輝の古城があったとの記録があります。遺構は確認できていません。

⑧関城（関）
関城は、標高一五二メートルの安桜山にあったとされています。築城時期については複数の説がありますが、永禄八年（一五六五）に織田信長が東美濃を攻めた際、長井隼人が関に本陣を置いたとの記録があるため、十六世紀中頃には何らかの防衛施設が築かれていたと思われます。安桜山は公園として整備されているため、城の遺構なのか判然としない箇所もありますが、北側の斜面には、腰曲輪と思われる平坦面や竪堀があります。山頂からの眺望は全体的に開けており、岐阜城などを見ることができます。なお、中世の関町は、新長谷寺などの門前町や、刃物を中心とする職人町として、安桜山の南側に栄えていたと考えられますが、北側に「城前」などの地名が残っていることから、城の正面が北向きであった可能性もあります。

⑨吉田城（吉田町）
村山頼秀（土岐頼芸の嫡子）が三河守と名乗り、吉田村に住んだとの記録がありますが、城館については記録がなく、位置は定かではありません。

⑩十六所山砦（十六所）
十六山という関の南西の山に、森長可の砦があったとの記録があります。

⑪山田城（山田）
佐竹別当秀義（鎌倉時代と思われますが山田の地頭で、山田城に住んでいたとの記録がありますが、位置は定かではありません。

⑫肥田瀬館（肥田瀬）
一四二一年（応永二九）に肥田瀬三郎持康が肥田瀬郷地頭職に安堵されたとの記録があります。位置は定かではありません。

⑬田原城（東田原）
土岐氏の一族に田原氏があり、東田原・西田原付近を本貫地としていたと推定されています。位置は定かではありません。

⑭迫間城（迫間）
関市と各務原市の境に近い、標高三三一メートル、比高一三〇メートルの迫間山には、かつて城があったとの記録があります。現在、迫間不動尊からの登山道が整備されています。迫間城に関する詳細な史料は見つかっておらず、歴史や城主などについては不明です。三段に曲輪を重ねた主郭など、遺構と思われる場所は残っていますが、虎口遺構がないため、比較的古いタイプの城ではないかと言われています。山頂からの眺望は北に向けて開けており、小野城や鉈尾山城などを望むことができますが、南側は周囲の山に遮られてしまいます。また、西側は山に視線を遮られてしまい、岐阜城（岐阜市）の方向を望むことはできません。迫間山を含む周辺は、遊歩道として整備されています。時間はかかりますが、迫間城から尾根伝いに進むと、猿啄城（坂祝町）に到達できます。

⑮市場城（市場）
慶長年中（一五九六年～一六一五年）、岡田将監の吏人として租税の収公に従事した山田四郎兵衛宅跡があるとの記録がありますが、位置は定かではありません。城跡ではなく館跡の可能性もあります。

⑯菅谷城（菅谷）
斎藤石見守の子六郎利兼が洞戸郷におり、土岐政房の重臣だったとの記録がありますが、遺構は確認できていません。

⑰小坂城（下洞戸）
佐竹次郎三郎義基の小坂城入口での戦功を称える建武四年（一三三七）四月七日の軍忠状の記録がありますが、城が機能した時期は定かでなく、遺構は確認できていません。

⑱田口城（田口）
長屋信濃守の城が田口にあったとの記録があり、長屋神社の北一帯が城跡と言われていますが、遺構とは断定できていません。

⑲門原館（門原）
神社の隣が館跡と言われていますが、遺構は確認できていません。

⑳白谷城（白谷）
白谷城主長屋若狭守が七千石で土岐氏に仕えていたとの記録がありますが、位置は定かではありません。金森可重（金森長近の養子）の実父である長屋信濃守が板取城の城主であったとの記録があります。

㉑跡部城（跡部）
跡部将監頼西がいたとの記録がありますが、現在は住宅地として造成されており、遺構は確認できません。

㉒大洞城（富之保大洞）
大洞城は関市富之保に所在し、津保川と武儀倉川が合流する地点の北に聳える標高一六〇メートル、比高差約三〇メートル、南北約一五〇メートルに遺構が広がります。織田信長の美濃平定後は、一柳直末、稲葉典通が居城としました。一時は郡上八幡城の出城になっていたようですが、関ヶ原の合戦後に廃城となったといわれています。山頂には石垣を巡らせた主郭となる曲輪があり、その他に石垣を有する櫓台や虎口、竪堀、堀切がみられます。城主の居館は南西山麓にある稲荷神社の南東側にあり、居館の南東側に延びる緩やかな尾根が大手道であったと推測されます。山頂からの見通しがよく、飛騨西街道と郡上八幡を結ぶ交通の結節点に立地し、重要な位置を占める城であったと考えられます。

㉓大洞城（富之保大洞）
丹波屋敷にあり、宇佐見左衛門尉が在城していたとの記録がありますが、遺構は確認できていません。

㉔町城（下之保）
稲葉傳右衛門という人物が城を構えていたとの記録がありますが、遺構は確認できていません。稲葉系図に傳右衛門という人物がいないとの記録もあります。

㉕大門城（下之保）
城跡であるとの記録がありますが、時期や城主は明らかにされておらず、遺構も確認できていません。

参考文献

『美濃國諸旧記』『美濃明細記』『新撰美濃志』『濃陽志略』『濃州徇行記』『日本城郭全集』『図説美濃の城』『新修関市史』『関市史』『洞戸村史』『武儀町史』『山県郡志』『岐阜県中世城館跡総合調査報告書』『各村略誌』